

平成29年2月23日

平成29年度 自動走行実証推進事業への応募申請書

	市町村名	瀬戸市
連絡先	部署名	都市整備部都市計画課
	担当者役職・氏名	技師 矢野公嗣
	電話番号	0561-88-2666
	FAX番号	0561-88-2724
	メールアドレス	tokei@city.seto.lg.jp

○ 本事業への応募理由

テーマ：県営菱野団地における持続可能な公共交通システムの整備

全国各地の住宅団地では開発後30年から40年が経過し、高齢化が急速に進むことで日常生活に必要な移動手段の確保という課題を抱え、地域が主体となり持続可能な運行を可能とする「地域主導型交通」に取り組んでいる事例が見られます。

今回応募する県営菱野団地も同様で、高齢化率は瀬戸市全体の高齢化率を上回っており、菱野団地内には交通空白地域も存在し、輸送サービスの確保が課題となっています。そのため、菱野団地内に限った生活交通の確保の観点から、菱野団地中心部を運行している名鉄バスへの乗り継ぎや団地中心部付近への通所、買い物など、住民の移動手段の確保を目的とした「地域主導型交通」（地域住民が自ら運行主体となって地域内のみの移動手段を確保する交通）の社会実験を平成29年度に瀬戸市独自で実施する予定をしています。しかしながら、人口が減少、高齢化する社会情勢下においても運転手を常に確保すること、運行経費を可能な限り縮減することなど 持続可能な公共交通システムを確立していくことが必要です。

そこで、瀬戸市における日常生活に必要な移動手段の確保という課題解決に向け、既に名鉄バスやタクシー部会等の交通事業者や自治会等地域住民が一体となって社会実験を行おうとしている体制のもと、持続可能な公共交通システムを確立していくために自動走行実証推進事業へ応募するものです。

なお、菱野団地は、瀬戸市の総合計画、都市計画マスタープランにおいて「地域拠点」として位置付けられ、団地中心部にコンパクトに機能が集積し、住みやすく魅力的な地域への再生に向け、平成29年度から居住の好循環をもたらす施策や、公共交通をはじめとする生活利便性の向上を図る様々な施策を実施していきます。短期的にも、全国に先駆けとなる自動走行実証実験を実施することで菱野団地のまちの魅力が高まり、地域の再生への取組みの加速化にもつながるものと考えています。

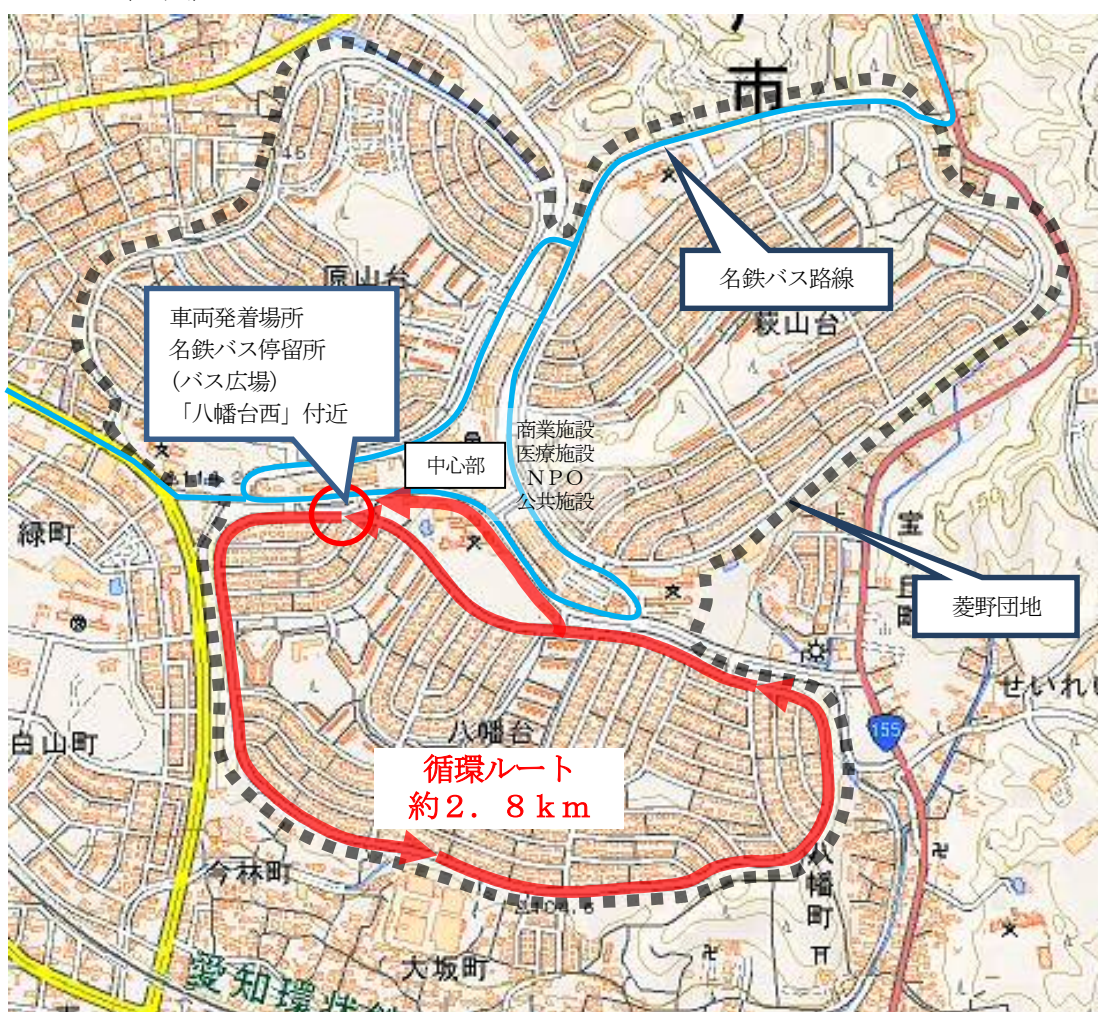
○ 実証実験実施場所、ルートの詳細

菱野団地八幡台団地地区

1 ルート（起点→終点）

八幡台外周道路循環ルート 名鉄バス停留所（バス広場）「八幡台西」→「八幡台西」

2 ルート（地図）



この地図は、国土地理院の地理院地図を使用したものである。

3 地理条件（既存のバスルートの有無、運行本数や地域の状況等を記入）

(1) 既存のバスルート 有

菱野団地中心部には、名鉄バスが運行する東山線・瀬戸循環線が運行しており、菱野団地から名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅方面（ピーク時4便運行）や藤が丘、名鉄バスセンター方面（1時間に1本程度）へ接続し、年間約23万人の利用があります。

(2) 地域の状況

菱野団地は周辺より一段高い丘陵地の上に位置し、中心地区には商店街などの商業施設、NPO、公共施設が立地しており、その周りに3つの住宅団地（八幡台、原山台、萩山台）があります。

4 道路条件（募集要項も参照のこと）

項目名	内容
路線距離	1周約2.8キロ
車線数	片側1車線（中央分離帯なし）
道路構造	歩車分離（歩道：マウントアップ式）、縦断勾配は0～3%程度
道路種別	市道八幡線及び市道八幡台1号線
トンネル、踏切	ともに無し
交通量	住宅団地内における日中の通過交通及び交通量は少ない
交差点	全ての交差点がT字交差、信号なし
起点・終点	起点：名鉄バス停留所（バス広場）「八幡台西」 終点：同上 駐停車場所、モニター調査実施場所の確保可能（公民館や自治会集会所を想定）
その他特記事項	近隣に学校があり、児童の登下校ルートあり 八幡台外周道路 速度制限30キロ

5 写真

(1) 道路の様子 (主要地点数カ所)

市道八幡台1号線 (八幡台外周道路)



市道八幡線



市道八幡台1号線、市道八幡線接続道路



Google ストリートビュー

(2) 起点、終点場所（名鉄バス停留所（バス広場）「八幡台西」）



Google ストリートビュー

(3) 車両待機場所（起点・終点場所と異なる場合）

—

6 高精度3Dマップの有無

無

7 貴自治体における自動走行に関連した独自の取組（実績、平成29年度の予定・予算措置状況等）

—

8 その他参考資料

平成29年度 菱野団地内における地域主導型コミュニティ交通社会実験を実施予定
団地内に限った生活交通確保の観点から、団地中心部を運行している名鉄バスへの乗り継ぎや団地中心部付近への通所、買い物など、住民の移動手段の確保を目的とした「地域主導型交通」（地域住民が自ら運行主体となって地域内のみの移動手段を確保する交通）の社会実験を平成29年度に瀬戸市独自（瀬戸市地域公共交通会議及びコミュニティ交通菱野団地運営協議会）で実施予定です。（参考資料参照）

菱野団地内における地域主導型交通の社会実験について

参考資料

1 地域主導型交通とは

自家用自動車（白ナンバー）で運行するコミュニティ交通

通常、バスやタクシーなどを有償で運行する場合は事業用自動車（緑ナンバー）でなくてはならないが、NPO等が地域住民の生活維持に必要な輸送を確保するためにやむを得ない場合は地域、対象者を限定して運行することができます。

2 目的

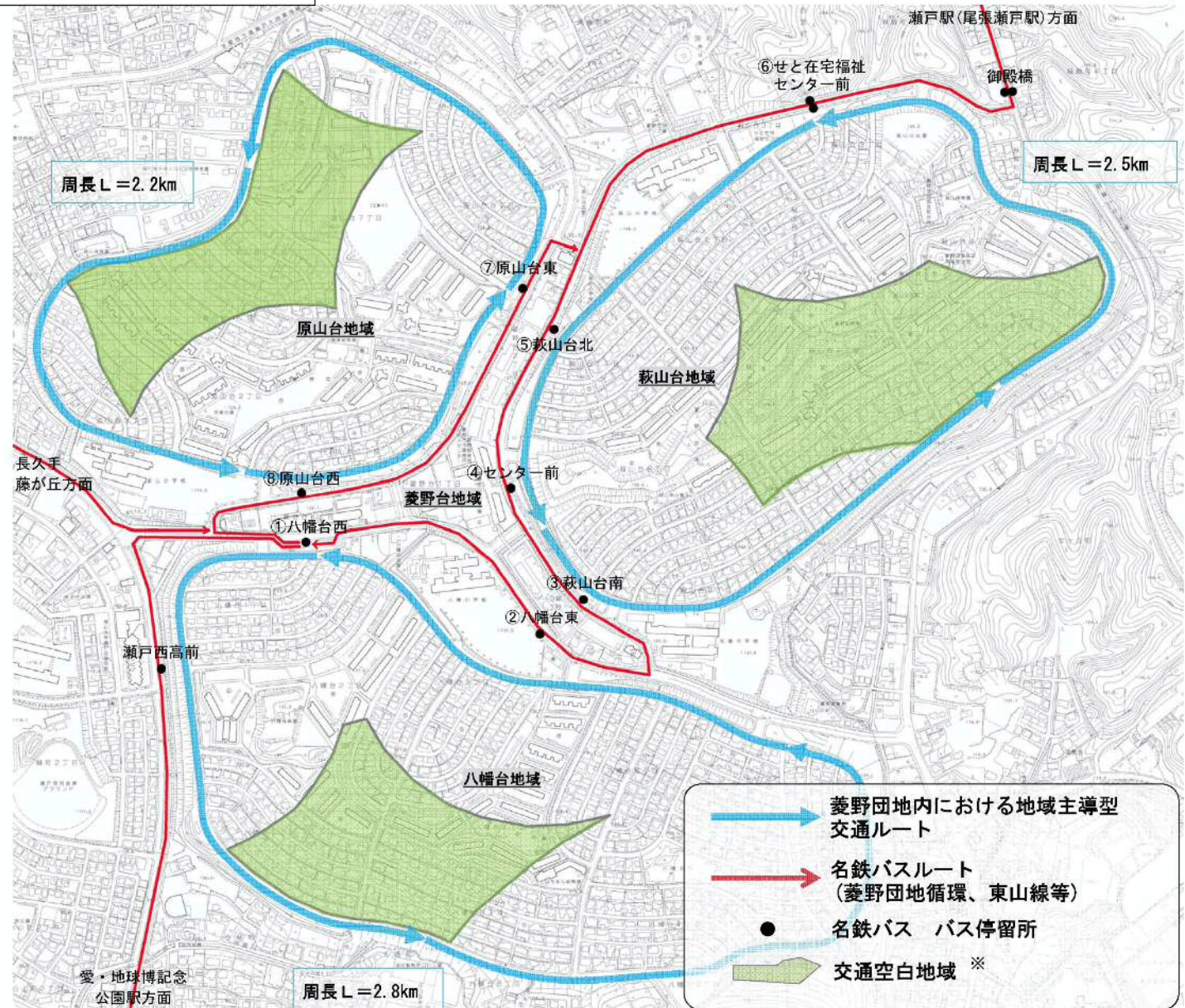
全国各地の住宅団地では、開発後30年から40年が経過し、高齢化が急速に進み、日常生活に必要な移動手段の確保という問題を抱え、地域が主体となり持続可能な運行を可能とする「地域主導型交通」に取り組んでいる事例が見られます。

菱野団地も同様で、高齢化率は、市全体の高齢化率を上回っており、団地内の交通空白地域が存在することで、住民に対する十分な輸送サービスが確保されていない地域となっております。

このため、団地内に限った生活交通の確保の観点から、来年度、名鉄バスへの乗り継ぎやセンター付近への通所、買い物など、住民の移動手段の確保を目的とした「地域主導型交通」の社会実験を行い、実験結果を地域の皆さんと一緒に検証し、平成31年度、地域の実情を踏まえた公共交通の再構築を目指しております。

3 期間

社会実験 平成29年夏頃から約半年間を予定

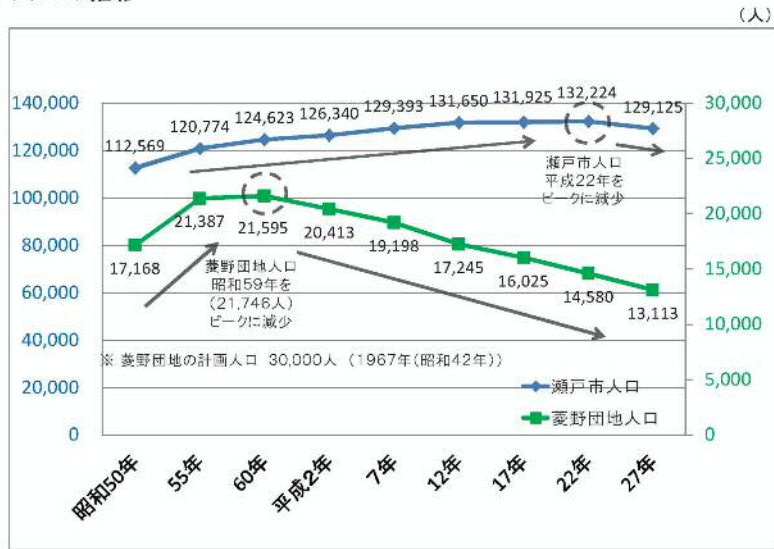


※ 鉄道駅から半径800m、バス停から半径300mの範囲外の地域

菱野団地の人口動向とバスの利用状況について

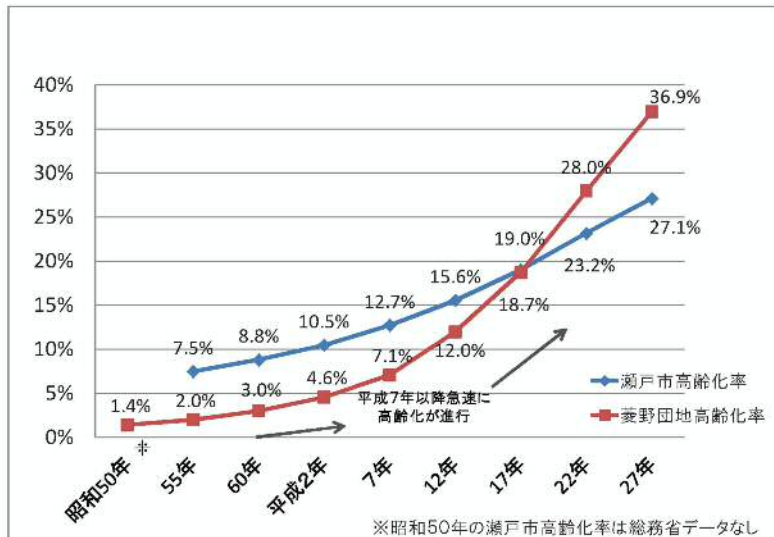
参考資料

1. 人口の推移



※瀬戸市人口は国勢調査、菱野団地人口は瀬戸市統計書より出典

2. 高齢化率の推移



※瀬戸市高齢化率は国勢調査、菱野団地高齢化率は瀬戸市統計書を基に算出

3. 菱野団地内名鉄バス停留所別乗降客数(1日あたり)

バス停留所名称	平成28年5月	平成27年5月	平成26年5月	平成25年5月	平成24年5月
① 八幡台西	146 (39)	148 (39)	160 (55)	176 (52)	165 (43)
② 八幡台東	132 (34)	139 (27)	130 (30)	116 (19)	136 (20)
③ 萩山台南	114 (25)	96 (13)	106 (26)	133 (28)	118 (24)
④ センター前	52 (8)	67 (7)	55 (6)	73 (7)	76 (13)
⑤ 萩山台北	83 (9)	74 (11)	95 (9)	81 (10)	80 (11)
⑥ せと在宅福祉センター前	177 (53)	185 (55)	162 (44)	170 (43)	142 (30)
⑦ 原山台東	76 (11)	77 (9)	92 (15)	68 (11)	98 (14)
⑧ 原山台西	101 (32)	112 (24)	92 (27)	88 (16)	100 (29)
合計	881 (211)	898 (185)	892 (212)	905 (186)	915 (184)

※()の数字は、内通勤・通学定期利用者数

4. 菱野団地発着方向別乗車人員の割合(1日あたり)

